

論文審査の結果の要旨

平成 30 年 2 月 9 日

但馬みほの博士論文「アメリカをまなざす娘たち：水村美苗、石内都、山田詠美の初期作品における越境と言葉の獲得」は、水村美苗、石内都、山田詠美という 3 人の現代日本を代表する女性表現者が、アメリカという存在を媒介にして、独自の表現を獲得していった過程と意義を追求した、独創的で画期的な研究論文である。水村、山田の文学、石内都の写真を、母娘関係を軸にジェンダーの視点から照明をあてることで、敗戦と敗北意識、「内なるアメリカ」の醸成・葛藤・克服の形象化として捉える、斬新な問題意識と分析は貴重である。特に生育した基地の街からヒロシマの風景へと至る過程を母娘関係から追究した石内都を論じた章は卓抜である。

グローバルな視点で戦後を対象化し、英語文献を含め先行文献を踏まえ、ジェンダー・フェミニズム批評、人種、民族、移住、越境というポストコロニアル的な批評など先端的批評を自在に駆使し、文学、写真というジャンル横断的なテキストを対象に展開した本論文は、当該分野に新たな視点と知見を付け加えたものとして、博士論文としての意義が十分に認められる。

今後、国際的な視点からジャンル横断的に日本の戦後文学研究を推進していくうえで、重要な視角と方法を提起した研究として、主査・副査全員から本博士論文に高い評価が与えられた。

主査	人文科学研究科	北田	幸恵
副査	人文科学研究科	小林	富久子
副査	人文科学研究科	岩淵	宏子
副査	人文科学研究科	芳賀	浩一